

の音に乗って聞こえてくるので、我々の食糧をあざりにここまでやって来るのではないかと思うと、心配で眠るに眠れません。月が上る頃になると、益々寒さがひどくなり、耳をすませば、ピンピンと何やら山に響く音も聞こえてくるので、いよいよ心細くなって何の音かとアイヌに尋ねると、トドマツの木の幹が凍って割ける音だということ、「この時期には珍しいことですが、10月〜12月の上旬にはこの音が激しくて、眠れないこともあるんですよ」と語ってくれました。夜明け前から、雪は益々降りだしました。

2月22日

激しい吹雪に向かって出発です。800メートルほどでタラマナイ、650メートルほどでヌツハラマナイ、28キロほどでアツウシナイ、さらに2キロほどでタエノスケ、2キロほどでトムシユイというそれぞれ小川を過ぎましたが、目も開けていられないほどの猛吹雪になったので、仕方なく野宿をすることにしました。

2月23日

快晴。北北東に向かって2キロほどのところで、札比内川、さらに2キロほどのところで川幅7メートルほどの晩生内川に出合いました。この川の源流は樺戸の山々にあるとのことでした。それからさらに2キロほどでヒンタウスナイ川、さらに1キロほどで川幅18メートル余り、全長4キロほどのヲホヒチャンという川に出ました。ここは鮭が多く、産卵場所になっているとのことでした。

そこからさらに4キロほど進むと、浦臼内川で、そこには人家が2軒ありました。それから2キロほどで黄臼内川、1.7キロほどでドエと呼ばれる沼がありました。この沼は幅が



札比内川

「かれた細い沢」を意味するアイヌ語「サツ・ピ・ナイ」が名前の由来。